



南魚沼市

新潟県南魚沼市六日町180番地1
 担当課：福祉保健部保健課
 〒949-6696
 TEL025-773-6811 FAX025-773-6839
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/>
 Eメール：boshihoken@city.minamiuonuma.lg.jp

本市のデータ

(1)面積 584.82Km² (平25.11.8)

(2)人口 (人)

12国調	17国調	22国調	27国調	令和元年9月末
65,492	63,329	61,624	58,568	56,298
65歳以上人口割合				32.49%

(3)世帯数

12国調	17国調	22国調	27国調
18,653	19,000	19,482	19,426

(4)沿革

平成16年11月1日大和町、六日町の合併(市政施行)
 平成17年10月1日塩沢町編入合併

(5)産業構造

区分	就業人口 17国調	就業人口 22国調	就業人口 27国調
1次	4,060人 12.6%	3,668人 12.0%	3,484人 11.4%
2次	10,221人 31.6%	9,081人 29.6%	8,772人 28.7%
3次	18,045人 55.8%	17,886人 58.3%	18,289人 59.9%
計	32,326人	30,635人	30,545人

本市の概要

自然・人・産業の和で築く 安心のまち

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し、首都圏からの太平洋側と新潟市までの日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中しています。関越自動車道や上越新幹線などの高速交通によるアクセスは大変便利で、交通や物流の中継地としての役割を果たしています。

こうしたアクセスの利便性によって、スキー産業などの観光産業基盤が充実するとともに、通勤・通学圏は、新潟市近郊はもとより関東圏にまで拡大し、企業の進出だけでなく、国際大学、北里大学保健衛生専門学院などが立地されています。



市の花「カタクリ」

カタクリは、市内各所に群生し、長期間雪に閉ざされるこの地に、春の訪れを教えてくれる可憐な花です。



市の木「コブシ」

コブシは、早春の野山に芳しい純白の花を咲かせ、可憐さとたくましさ併せ持っています。花咲く頃から農作業が始まるため豊作の象徴にもなっています。

名産「南魚沼産

コシヒカリ」



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

・自殺対策計画の基本方針

- (1) 自殺対策を生きることの包括的な支援として全庁体制で推進する
- (2) 関連する他の支援施策と連携させることで、総合的な対策として展開する
- (3) 対応のレベルと段階に応じた、様々な施策の効果的な連動を図る
- (4) 自殺や精神疾患に対する偏見をなくす取組と、自殺予防の啓発的な取組とを合わせて推進する
- (5) 関係者の役割の明確化と、関係者の連携・協働によって市民を支える取組を推進する

・目標

平成37年度末までに、過去10年平均自殺者数を18人以下に減少、自殺死亡率を現在の22.3(人口10万対)より減少させる。

<具体的な取組み>

1. (1)関係者が連携して対策に取組む「自殺・認知症予防対策会議」
(H19～月1、H22～隔月実施)
参集者：市立病院医師・保健師、ハローワーク、保健所、保健課、介護保険課、地域包括支援センター職員、市内宗教関係者等
※ H28年度から子ども・若者育成支援センター、H29年度から生活困窮者支援事業所
内容：自殺対策推進について意見や情報交換、事業の企画と評価、事例検討
(2)SOSの出し方に関する教育に関する教育委員会との連携会議
2. 対面型相談支援事業(H20～)
専門相談会「心の健康相談会」(保健所「心の健康相談」と共催)年3回
担当：市病院事業管理者院長(精神科) 宮永和夫医師
ところとくらしの総合相談会(H27年度より、管轄保健所・湯沢町と共催。年1回県の推進月間の9月実施)
3. 人材養成事業
 - (1)うつ自殺予防講演会(商工会、各地区)(H20～)年3回
内容：医師講話「うつ病の理解と対応～自殺予防を考えて」
講師：市病院事業管理者 精神科 宮永和夫医師
 - (2)宗教関係者と保健医療福祉関係者の連携(H20～)年1回、H30年度から訪問に切り替えて、情報交換を実施
 - (3)相談対応スタッフ研修(介護サービス事業所職員を含む)
H20～年1回 H28～年2回コース、H30～年1回対象を教員等にも拡大
 - (4)民生児童委員研修会(H23～)年1回 3会場
 - (5)地域で心のサポートを考える会(簡易ゲートキーパー養成)(H23～)
対象：自殺率の高い地区の役員と地域住民
講師：市病院事業管理者 宮永和夫医師(～H26)管轄保健所保健福祉相談員(H27～)
※H29・30年度は、新潟県地域特性重点特化事業として県と共催し、
講師に地元医師会に依頼、R元年度は、市事業で継続。
 - (6)アルコール対策研修会(簡易ゲートキーパー養成研修)(H24～年1回・H29～2年1回)
講演「飲酒と心の健康～アルコールの上手な飲み方～」
講師：白根緑ヶ丘病院 古谷野好医師
 - (7)市職員向けゲートキーパー養成事業と気づきチェックシートの活用(H28職員研修で周知)
 - (8)健康推進員研修会で自殺予防テーマに取り上げ、市民公開講座として実施(H30～)
 - (9)自殺予防に向けての教職員への研修会(R1～)
4. 普及啓発事業
 - (1)いのちとところの法話会(H22～)年3回
内容：地域住職による生きること、死ぬことについての法話
 - (2)市民公開講座
H22年度「うつの早期発見と予防」精神医療センター 五十嵐正徳氏 参加者139人
H24年度「津軽三味線小林親子が語る」小林佳史氏、高橋竹育氏 参加者357人
 - (3)FMゆきぐにラジオ広報
 - ①H24～：20秒スポットCM
 - ②H21.1～開始。現在は9月、11月、3月に週1回 約5分
講演会の現場レポートやお寺様のお話「心の時間」
 - (4)市報みなみうおぬまにうつやアルコールと自殺の関連を掲載(9月1日、12月1日、3月1日)
 - (5)住民健診での保健指導 内容：アルコールの心の健康への影響
 - (6)事業所・健康教育 年1～2回 ・献血時のパンフレット配布
 - (7)学校保健との連携：県立八海高等学校「教育相談講演会」参加：450人
 - (8)自殺予防普及啓発リーフレット、携帯ストラップ、カード作成と利用
 - (9)若年者対策 成人式でのパンフレット配布(H27～)、SOSの出し方に関する教育モデル授業実施(R1)
5. ハイリスク者に対する支援(保健所と協力し実施)
救急病院への未遂者支援に関する協力依頼(市立病院・魚沼基幹病院)
6. 遺族支援
 - ①リーフレットの作成、活用場の検討
 - ②関わりのある遺族・遺児に対する事後介入
7. 現状分析・実態把握
平成23年度～人口動態(死亡小票)の調査や、統計等のデータの蓄積と分析
8. 庁内連携会議の設置 H29年度から